



## 湖山池に関する湖山地区の取り組みについて

湖山地区自治会長 村山 洋一



「湖山池に関する当地区の取り組みについて」湖山地区自治会長として主要な2点の取り組みについて紹介させていただきます。

第1点は「天神山城跡の集い」についてであります。この天神山城跡は湖山町南3丁目の鳥取緑風高等学校敷地内にあります。

天神山城は15世紀後半約100年間、因幡の守護所として政治・経済の拠点であり、鳥取城の元城であり昭和51年に県の史跡に指定されております。

この天神山城の外堀として湖山池と湖山川を利用していたといわれており、現在でも井戸・やぐら跡・堀の跡などが残っています。県内に残る貴重な城館であるといわれております。この歴史的にも由緒ある天神山城跡を郷土の貴重な文化遺産として整備保存し、後世に伝承していくことは地域の責務である考え、平成14年から「天神山城跡まつり」として6年間開催し、平成20年から地元自治会が主体となって清掃奉仕作業も緑風高校生有志とともに実施し、歴史や史跡の発掘の専門家の講和を拝聴し天神山城の認識を深めるため「天神山城跡の集い」として毎年4月下旬に実施しております。

今年も4月24日に「第9回天神山城跡の集い」を緑風高校ならびに県教育委員会の協力をいただき開催するよう進めております。天神山は標高25メートルの丘陵であり湖山池を眼下に眺める眺望は湖山池八景にも選ばれております。天神山城跡が日本一の湖山池とともに歴史的文化遗产として再認識されることを祈念するものであります。

次に第2点「湖山川クリーンキャンペーン」についてであります。湖山川は湖山池と日本海を結ぶパイプ役をしている重要な河川であります。この湖山川をきれいにする事は湖山池の美化にも繋がることから、今から15年ぐらい前から地区壮年団が、のぼり旗を立てたり、いかにレースをして社会的にキャンペーンとして取り組んだのが始まりでした。

現在はのぼり旗を橋に立て湖山川の土手の清掃・草刈を地区壮年団が中心となり自治会役員も一緒になって汗を流しております。

今後とも湖山池・湖山川の環境美化については湖山地区全体の問題としてクリーンキャンペーンの旗のもとに湖山地区まちづくりの主要なテーマとして取組んでいきたいと考えます。



## 湖山池に思う

湖山西公民館 館長 星見 清晴



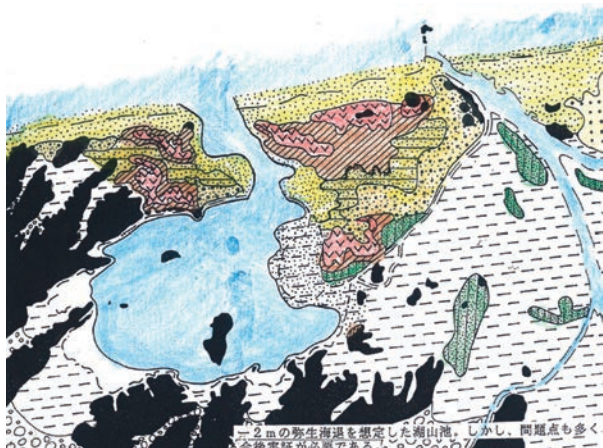
湖山池の北岸で生まれ育った私は、幼いころから湖山池で遊び、そして、湖山池の移り変わりを我が家の縁側で毎日見続けてきた。起床して縁側から見る湖山池は同じ姿かたちをしておりながら、四季折々にその装いを変えていく。春は中国山地の残雪を背景に青島に咲く桜の花の淡いピンク色が湖上に映える。夏は日本海から吹いてくる心地よい海風を受けて快走するヨット、秋は中国山地の頂から順に紅葉が麓へと降りてくる。そして、冬は鷲峯山に降った新雪が朝日に輝き、鏡肌の湖山池に映るその姿は表現のしようがないほど美しい。

幼いころ、湖山池はもっと私たちの生活の中に溶け込んでいたように思う。早春にはシラウオを追って岸辺を走り、夏の水浴びでは20cmを越すようなカラスガイ獲りに興じた。夕暮れが早くなり、渡り鳥がやってくると、学校帰りにわざわざ田んぼのあぜ道を通りカモの群れを眺めた。冬、北西の寒風の吹きすさぶ中、祖父が仕掛けた刺し網にかかったアマサギを、かじかむ手をさすりながらはずしたこと等は、今は遠い思い出となってしまった。

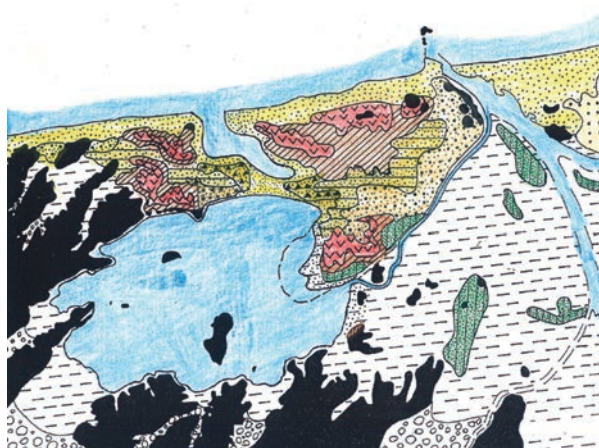
ところで、湖山池はいつ頃から今のような池としての機能を有するようになったのであろうか。湖山池の誕生を解く鍵は湖山砂丘の形成を明らかにすることである。湖山砂丘は大きく分けて五つの部分に区分できる。①鳥取大学の位置する丘陵（古砂丘のみできて）、②鳥取空港の位置する海

岸部にある小高い砂丘（古砂丘と新砂丘）、③ 鳥取商業付近から湖山川に沿って作られている砂丘（新砂丘のみ）、④ 国道9号線が通る低地（海拔7m面）、⑤ 鳥取大学附属支援学校から元のすくも山にかけて広がる低飛砂地（海拔2.5m面）。この五つに区分できる湖山砂丘はほぼ①～⑤の順に形成されている。従来、湖山池は、弥生時代に起こった2m前後の海面低下で湖山池の原形ができたものと考えられていたが、最近行われたボーリング資料や打ち上げ貝の分布等に基づく、⑤の2.5m面の部分は弥生時代には海とつながっていたと考えたほうが合理的である。湖山池が閉ざされたのは、中世末から江戸期にかけて激しくなった飛砂によるものと判断したほうがよさそうである。

最近の湖山池は汚濁の進行に苦しみ、諸種の対策が試みられているが、根本的な対策は残念ながら実施できていない。周辺市民はもとより、多くの人々の湖山池に対する環境・美化意識の改革を願うと共に、湖山池の歴史を踏まえた浄化対策をみんなで考え、実施していくことが大切であると感じるこの頃である。



弥生時代の湖山池



中世の湖山池



## 「湖山池雑感」

放送大学鳥取学習センター 所長 西田 良平



湖山池は鳥取平野の西端にあり、南と西は山が迫り、北は湖山砂丘から日本海東は鳥取平野に面しています。池の周囲約16kmで、水面の高さが海面と同じ「汽水湖」です。最大の幅は東西が約4km、南北が約2.4km、面積は約6.8平方kmで、水深は浅く、大体2～4mの深さで、最大水深は竜ヶ崎沖の6.5mです。日本の湖沼では32番目の大きさであり、汽水の海跡湖では17番目、池と名の付く湖沼では日本一です。湖山池の生物は多様で、夏期には、ヨシ、マコモ、エビモ、アオミドロなどの植物とタニシ、カラスガイ、モクズガニなどの底生動物、コイ、フナ、シラウオなどの魚類が生育し、冬はマガモ、コガモなどの水鳥やプランクトンも多い。

湖山池の形成は、鳥取平野が形成されてきた最終段階、古砂丘が形成されたことにより海と切り離され「古湖山池」ができ、再度縄文海進により海面が上昇して来て日本海とつながりました。その後海面が低下したことと新砂丘が形成されていった段階で、砂丘の背後に取り残された潟湖（かたこ）です。中世までは日本海に開かれていたのが、今では湖山川で千代川・日本海に繋がっています。池には青島、猫島、津生島、団子島などがあり、背景の山々と点在する島々の風景は四季を通じて楽しむことができます。

湖山池固有の伝統漁法として「石がま漁」があります。湖岸から沖に向かって開いた扇型や馬蹄形に石を積み上げて、石釜を築きます。石釜の最下部には何本かの魚道があり、追い込んだ魚を捕獲する胴函（どうかん）に通じています。石釜に潜む魚を捕る作業を「石釜揚げ」と言い、1月下旬から2月の厳冬の静かな天気の日、数人以上の勢子で数時間から10時間ほど、突き穴を突き棒で突き、魚を魚道から胴函へと追い込んで一網打尽にします。捕獲される魚は在来種のフナが主です。

文学的にもいろいろと取り上げられています。江戸末期の「稲葉佳景 無駄安留記」に、「湖上八

勝」が「近江八景」と対比して記述されています。

野崎落雁・矢山暮雪・三津帰帆・福井晩鏡・松原夜雨・高住夕照・布施晴嵐・湖山秋月  
伝承として「湖山長者」の話があり、島崎藤村の『山陰土産』や志賀直哉の「暗夜行路」などに、湖山池の風景の描写と「湖山長者」の話が出てきます。

現在、長年にわたる生活排水と農業用水によって水質汚染が進み、瀕死の状況になっています。大きな課題は水質浄化を進めることで、専門家による研究会が発足し、水理学的・化学的・生物学的・土木的などいろいろな方法が検討され、試みられています。しかし、50年以上蓄積した汚染がすぐに回復することはなかなか難しいのが現状です。

2010年冬季オリンピックが開催されているカナダのバンクーバー市には、市街地から西に約15分歩くと、針葉樹林に覆われた自然林が主の市民憩いのエリア、スタンレー公園に行くことができます。イングリッシュ湾に突き出し三方を海に囲まれた半島全体が公園で約400ヘクタールもあり、半島を海沿いにぐるりと一周するシーウォール（Seawall）という約9kmの遊歩道とサイクリングコースが整備されて、市民の健康・レクレーションの場となっています。

鳥取平野の西にある湖山池は、市民の憩いの公園、健康増進のエリアとして最適の条件を整えています。湖山池を廻る遊歩道の整備はその要望が出されて長い年月が経っていますが、実現には至っていません。

## 湖山池の景観を保全するための鳥取市の取り組みについて

鳥取市都市計画課課長補佐 山本 博久

鳥取市には、日本最大の砂丘として知られる鳥取砂丘をはじめ、紺碧の日本海や湖山池、清らかな流れの千代川、市街地にそびえる久松山など、水と緑豊かな自然景観を多数有しています。また、山城の鳥取城跡、鹿野城下町、因幡国庁跡など、多くの歴史的・文化的景観が当時の面影を残しています。

鳥取市では、これらの個性あふれる資源を次の世代へ伝えていくため、平成20年3月に景観まちづくりの指針となる「鳥取市景観計画」を策定しました。

本計画では、「恵まれた自然環境と共生し、豊かな歴史・文化が息づく生活交流都市・とっとり」を景観形成の基本目標とするとともに、この基本目標を踏まえ、鳥取市の恵まれた環境や特性を守り・育て・活かすための全市に共通する5つの景観形成の基本方針として①心やすらぎ、味わい豊かな自然景観の保全・育成 ②歴史・文化資源を活用した落ち着きと風格がある景観の形成 ③にぎわいとうるおいに富んだ街なみ景観の創造 ④まちの個性に彩られた美しい公共空間の形成 ⑤市民との協働による景観まちづくりを示し、20万人市民が豊かさを実感し、いつまでもいきいきと住み続けられる美しく魅力ある景観まちづくりを目指しています

また、景観計画区域のうち、歴史・文化、自然等の特色が象徴的に現れ、良好な景観の形成が特に必要とされる地域、改正前の市条例によって指定していた①久松山山系、②湖山池、③因幡白兔の3地域、美しい街なみの再現・創出に先導的に取り組んでいる④鹿野城下町の4つの地域を景観形成重点区域として指定し、建築物の建築等の行為について外観、色彩などの項目をより厳しい基準を設けて制限することによって景観形成を推進しています。

なお、湖山池景観形成重点区域では、地域イメージを「古代ロマンを秘めたのどかな個性ある水系風景」、景観形成の目標を「歴史と自然の織りなす豊かな水郷景観の保全」、景観形成の基本方針を①湖沼と一体となった自然景観の保全 ②建築物等の色彩計画を水と緑に調和する落ち着いた色彩となるように誘導、③自然と一体となった歴史的、文化的景観の保全として、景観形成を推進しています。

また、鳥取市では平成15年に、学識経験者、鳥取市観光協会、湖山池を守る会、鳥取県、公募委員など19名からなる委員会を設置し、「湖山池周辺地域基本計画」を策定し、水質・水面、自然環境、護岸、景観形成、歴史・文化・伝統など9項目の整備計画指針に基づき湖山池周辺を7地区に分け、公園整備事業23項目、ソフト面での施策26項目、その他事業29項目の計78項目について、具体的な整備方針を設定して様々な取り組みを行っています。

今後も県、市、市民団体など関係者が協働して湖山池の景観を保全するための取り組みを行っています。